

右側はクメ状で簡単に登れるが、足置らしに左側の滝を直登する。花岩のしっかりしたホールドがあり、それほど苦勞もなく滝口に登る。続くP3は5m程度の滝だが、シャワータイムを強いられ、すっかり体をぬらす。連続した2つの滝をすぎると、2段(下段が低い)のP6につく。左側から取りつき滝口にぬける。高度をどんどん上げながら登り、沢が左にカーブするあたりで左岸から支流が滝となって入り込んでいる。P8で、こんどは右にカーブし、小滝が連続したところをすぎると、やぶがかなさるがきにくい沢筋が変わる。傾斜もゆるくなり、左右から木の枝がかぶさり歩きづらい。途中、4~5mの至近距離でカモシカと出会う。この先はやや開けた沢筋となるが、もう滝もなく、ひたすら先に進む。右岸からの支流とわかれると、すぐ水がなくなる。急傾斜となった沢をつめ、やぶこぎをして登山道に出る。(記・森 慎吾)

3. 阿武隈源流・本谷と赤滝沢

昨年引き続いてとりくんだ阿武隈源流の2本の沢の記録を紹介する。会報「725」No.6の記録(白水沢・南沢・一里滝沢右俣)と合わせて参考にしていただきたい。

阿武隈源流・本谷

1978年8月27日

L西 和文 菅野喜吉 大戸幸研

甲子温泉より30分ほど右岸の林道を終点まで歩いて、6時35分沢に入る。30分歩くと雄滝。次の雌滝とあわせて右岸より高捲く。捲き道はかなりはつきりしてきていた。40分程で天狗滝沢分岐のすぐ下流に降りた。沢に降りる途中天狗滝が木々の間より見えた。2つ程小滝を越え、8時10分赤滝沢との二俣。赤滝沢の方が本谷より水量が多く沢床も低いので本谷とまちがえやすい。

二俣より本谷の方はすぐ滝が見える。この滝の左岸斜面を滝の方に向かってカモシカが通っていった。このカモシカの通っていった所をたどると楽に通過できた。トリカブトの花がきれいだ。ここらあたりから先ヤブこぎに入るまで随所に咲いていた。少し行くと小滝があり、そこを過ぎるとチムニー状の滝があった。滝のすぐ



阿武隈本谷・赤滝沢

左側より直登を試みた
 が、岩質がもろかった
 のと中程に足場がなく、
 結局断念。右岸より高
 捲きにかかる。左上に
 斜めに走るテラスを空
 身で登り、ザックをつ
 り上げる。この時落石
 があり、左足首上にあた
 るも別に異状なし。この
 上もかなり足場が悪く安全
 のためザイルで確保して通過し
 た。ここの高捲きに約1時間を要
 した。後はナメや小滝を通りながら1
 時間程遡行を続けたあと昼食にする。両
 岸よりヤブがかかり、一部伏流になったり
 する中をなおも進み、最後は左岸側にヤブ
 をこぐ。1時間15分程で稜線に出る。そこは
 三本槍岳より5分程下った所であった。
 (記・宍戸幸務)

甲子温泉(6:00)——林道終点(6:35)——
 赤滝沢出合(8:10)——稜線(12:35)

阿武隈源流・赤滝沢 1978年6月24日

L 西和文 森慎吾 川内郁緒
 5時45分沢に入り遡行開始。最初は平凡である。
 南沢・一里滝沢を見送って先へと進む。やがて雄滝
 につく。10m程だ。右岸から合する小沢のすぐそば
 を登ると踏跡があったのそれをたどる。木々の間か
 ら雌滝がみえてきた。40m程の大きな滝だ。いったん
 沢に降りることなくそのまま高捲くことにした。小さ